

関西支部

高山浩一, 八並 淳, 川崎雅之
中西洋一, 原 信之
国病九州がんセンター

一瀬幸人

接着分子のCD44には, 多数の isoformがあることが報告されている。中でもCD44 variant 6は大腸癌や乳癌で転移への関与が示唆されている。当教室では以前より肺癌組織中のCD44の免疫組織学的検討を行っているが, 肺癌において扁平上皮癌はその他の肺癌に比べCD44の発現率が有意に高いという結果を得ている。そこで今回は扁平上皮癌のみを対象に手術切除肺検体42例でCD44 standard及びCD44 variant 6発現を調べ, 臨床経過との関連について検討を加えた。

67. 肺癌細胞におけるcyclin B発現に関する検討

長崎大第1外科

柴崎信一, 田川 泰, 佐々野修
柴田良仁, 原 信介, 綾部公懿
cyclin Bは本来, G2/M期特異的タンパクとされるが, A549肺癌細胞株を用いた flow cytometry (FCM)による解析で, G1期でのunscheduled expressionを示した。細胞死とcyclin Bとの関係に興味を持たれ, シスプラチン, カフェインの細胞周期, 抗腫瘍効果とcyclin B発現に及ぼす影響について検討した。まず, A549細胞にシスプラチンを接触させ, カフェイン無添加あるいはカフェイン添加の培地に交換し, 経時的にFCMによるcyclin B発現の解析を行った。シスプラチン単独ではG2期蓄積とG2期のcyclin Bの過剰発現がみられ, カフェイン併用で抗腫瘍効果の増強とcyclin B発現の抑制がみられた。cyclin Bは損傷細胞の修復に関与していると考えられた。

関西支部

□第64回

日本肺癌学会関西支部会

平成8年7月20日(土)
神戸市産業新興センター
当番幹事 坪井紀明
(兵庫県立成人病センター胸部外科)

1. 限局型小細胞肺癌における腫瘍体積と予後の相関について

大阪府立羽曳野病院第2内科

小林政司, 高田 実, 松井 薫
益田典幸, 平島智徳, 梁 尚志
小宮武文, 高田賀章, 川瀬一郎
同 放射線科 多田卓仁
水口和夫

1991年5月から1994年12月までに限局型小細胞肺癌に対する第3相臨床試験(JCOG-9104)に登録され, 化学療法および放射線療法を行った36症例を対象とした。腫瘍体積は胸部CT縦隔条件画像での腫瘍面積を加算合計することにより算出した。他の予後因子と併せて多変量解析にて検討したところ生存に寄与する因子は病期と年齢であった。腫瘍体積は病期と強い相関を認めた。

2. 末梢血幹細胞移植(PBSCT)により中等量化学療法を施行し得た, 高齢者肺小細胞癌の1例

大阪医大第1内科 細井慶太
鈴木ユリ, 藤田一彦, 橋本重樹
後藤 功, 福本敦子, 福田泰樹
K.Y.Min, 大澤仲昭

心筋梗塞の既往のある64歳男性。肝, 骨転移を伴う肺小細胞癌でT4N3M1のED症例。CBDCA 300mg/m²(day 1)+

VP16100mg/m²(day 1-3)+G-CSFにてCFU-GMを 2.27×10^6 , CD34陽性細胞 1.71×10^7 を得た。CBDCA 500mg/m²(day 1)+VP-16 500mg/m²(day 1)+ifosfamide 5g/m²(day 1)をPBSCT併用により安全に実施し得た。60歳以上でも必要量の幹細胞が採取できPBSCTによる骨髄毒性の軽減が可能である。

3. 血液透析下に化学療法を施行した腎不全合併小細胞肺癌の1例

大阪市立総合医療センター呼吸器内科

武田晃司, 根来俊一, 新田 隆
瀧藤伸英, 寺川和彦, 福岡正博
同 泌尿器科 金 卓
同 内科 今西政仁

症例は64歳の女性。脳転移を伴う進展型の小細胞肺癌で, 脳転移巣は放射線治療にてコントロールされた。高度の腎機能障害を認めため, CBDCAとVP-16を用いた化学療法をCBDCAの減量と血液透析を併用して4コース施行した。抗腫瘍効果はPR, 主な副作用は血液毒性であったが, 耐用可能であった。

4. 肺門部早期肺癌を合併した小細胞肺癌ED(Extensive Disease)長期生存の1剖検例

国療近畿中央病院内科

川口知哉, 中尾光伸, 紙森隆雄
河原正明, 児玉長久
小河原光正, 安宅信二
岡田達也, 沖塩協一, 中 宣敬
土山哲生, 古瀬清行
同 病理科 山本 暁

症例は76歳男性。小細胞肺癌EDで肺門部早期肺癌を同時に合併した。化学療法とphotodynamic therapy(PDT)が奏功し, 長期生存が得られ, 剖検を行った一例を経験したので報告する。